

科目ナンバリング		U-LAS01 10003 LJ38							
授業科目名 <英訳>	日本史II Japanese History II			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 吉江 崇				
群	人文・社会科学科目群		分野(分類)	歴史・文明(基礎)		使用言語	日本語		
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2024・後期		曜時限	月2/月3		配当学年	全回生	対象学生	全学向
【授業の概要・目的】									
【日本古代の国家と政治 摂関政治の萌芽】 日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。今期は、摂政・関白が出現する9世紀後葉から10世紀前葉の政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。									
【到達目標】									
日本古代史における正確で幅広い知識を獲得するとともに、これまでの研究の流れを自分の力で整理し、それらを客観的・批判的に把握して、自らの歴史像を組み立てるための技術を習得する。									
【授業計画と内容】									
7世紀後葉に成立した日本の律令国家は、8世紀後葉から変質をはじめ、長い過渡期を経て10世紀後葉に摂関政治へと転成した。今期は、摂関政治の前提が形成される9世紀後葉から10世紀前葉にかけての国家の様相を、政治史を中心にしながら考察する。まずは幼帝が登場する過程を検討し、摂政・関白が出現する背景を整理する。次いで、応天門の変や陽成天皇廃位事件、阿衡事件、菅原道真の左遷といった政争に焦点をあて、この時期の政治動向について考察する。最後に、仏教思想との関連からこの時期の天皇の様相を概観し、摂関期における天皇の様相について展望する。									
第1回 イントロダクション 過渡期としての平安時代前期 第2回 幼帝清和の登場(1) 第3回 幼帝清和の登場(2) 第4回 応天門の変と摂政の出現(1) 第5回 応天門の変と摂政の出現(2) 第6回 陽成天皇廃位事件をめぐって(1) 第7回 陽成天皇廃位事件をめぐって(2) 第8回 阿衡事件と摂関政治(1) 第9回 阿衡事件と摂関政治(2) 第10回 菅原道真の左遷(1) 第11回 菅原道真の左遷(2) 第12回 平安時代前期の仏教と天皇(1) 第13回 平安時代前期の仏教と天皇(2) 第14回 総括 《期末試験》 第15回 フィードバック									
----- 日本史II(2)へ続く -----									

日本史II(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

期末試験（筆記）にて成績評価する。

[教科書]

使用しない
授業中にプリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

シラバスなどから授業の進行を確認し、各回の授業内容を想定しながら予習をすること。

[その他（オフィスアワー等）]

授業は講義形式で行う。